



2025年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年11月14日

上場会社名 ブリッジインターナショナルグループ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7039 URL <https://ir.bridge-g.com/ir/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 融正
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 大島 太郎 TEL 03-5787-3030
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第3四半期の連結業績(2025年1月1日~2025年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第3四半期	6,785	3.5	742	3.5	738	△3.6	469	△0.1
2024年12月期第3四半期	6,552	21.8	717	4.2	766	10.9	469	2.1

(注) 包括利益 2025年12月期第3四半期 470百万円(△1.5%) 2024年12月期第3四半期 477百万円(3.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第3四半期	130.59	—
2024年12月期第3四半期	129.23	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第3四半期	5,872	4,651	78.8
2024年12月期	5,987	4,396	73.0

(参考) 自己資本 2025年12月期第3四半期 4,625百万円 2024年12月期 4,371百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	17.50	—	17.50	35.00
2025年12月期	—	42.50	—	—	—
2025年12月期(予想)	—	—	—	42.50	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年12月期の連結業績予想(2025年1月1日~2025年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,027	4.8	967	1.9	967	△0.3	588	△11.1	163.65
	~9,858	~14.4	~1,053	~10.9	~1,053	~5.6	~642	~△3.0	~178.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年12月期3Q	3,768,600株	2024年12月期	3,768,600株
2025年12月期3Q	173,794株	2024年12月期	173,751株
2025年12月期3Q	3,594,814株	2024年12月期3Q	3,636,814株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(四半期連結損益計算書)	6
(第3四半期連結累計期間)	6
(四半期連結包括利益計算書)	7
(第3四半期連結累計期間)	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(四半期連結損益計算書に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や訪日観光需要の高まりを背景に、個人消費を中心とした回復基調が継続しております。一方で、米国による関税政策の強化や世界的な金融引き締め長期化に加え、資源価格や為替相場の変動幅が再び拡大するなど、企業業績や家計に対する下押し要因も顕在化しており、先行きには引き続き不透明感が残る状況です。

当社グループを取り巻く事業環境にも、いくつかの重要な変化が見られます。まず、生産年齢人口の減少に伴い、企業は営業組織の生産性向上を迫られており、売上成長を支援するサービスのニーズが高まっております。また、日本市場の成熟化により、消費者の購買行動は多様化・高度化しており、企業が持続的な売上成長を実現することが一層難しくなっております。さらに、生成AIなど新しいテクノロジーの進化が進む中で、企業は自社のビジネスモデルや営業活動に適した技術を十分に活用できておらず、専門人材の不足も深刻な課題となっております。こうした環境変化の中、当社グループが提供するビジネス支援サービスに対する需要は引き続き拡大傾向にあります。

このような環境のもと、当社グループはそれぞれの事業拡大に注力した結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、6,785百万円(前年同期比 3.5%増)、営業利益は742百万円(同 3.5%増)、経常利益は738百万円(同 3.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は469百万円(同 0.1%減)となりました。

セグメント別の状況は以下のとおりです。

(インサイドセールスアウトソーシング事業)

インサイドセールスアウトソーシング事業は、既存顧客からの売上が年間売上全体の9割以上を占める、安定したストック型ビジネスです。高い成果を持続的に提供することで、業界内でも高単価でのサービス提供を維持しております。

既存の取引は順調に拡大しておりますが、予定していた案件の第4四半期以降へのスリップもあり、当第3四半期連結累計期間におけるインサイドセールスアウトソーシング事業の売上高は、3,465百万円(前年同期比 2.9%増)となりました。また、持株会社体制への移行や管理部門の強化に加え、従業員のリテンションを目的とした一時的な賞与の支給を行い、セグメント利益は419百万円(同 15.5%減)となりましたが、年間計画どおりの進捗です。持株会社体制への移行費用や、特別賞与は来年以降の再成長に向けた一時的な基盤整備、人的資本投資として位置づけており、来年以降継続してかかる費用ではありません。

(プロセス・テクノロジー事業)

企業が売上の伸ばすためには、マーケティング、セールス、カスタマーサクセスといった活動を支える「仕組み」の整備が不可欠です。業務プロセスの設計、活用するテクノロジーの選定、データ活用の方法がその重要なポイントとなります。プロセス・テクノロジー事業では、AIなど最新テクノロジーを活用しながら、これらの仕組みを構築から運用までサポートするサービスを提供しております。

このような環境のもと、同社グループのプロセス・テクノロジー事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は、1,359百万円(前年同期比 1.3%増)となり、セグメント利益は60百万円(前年同期はセグメント損失17百万円)となりました。

売上高は、昨年子会社化したトータルサポート株式会社において、今期戦略の中心に置いている製品「Sawwave」※1の立ち上がりに時間を要しており、計画未達となりました。一方、利益はコンサルティング&システムソリューションの人員の最適配置による稼働率向上及び、それにとまなう外注費の抑制の効果により大幅に増益となりました。

※1 韓国製のネットワーク可視化ツールで、社内の通信環境やアプリケーション利用状況をリアルタイムで分析・最適化する製品

(研修事業)

研修事業では、新卒研修が売上の約4割を占めます。顧客は主にIT企業であり、新卒研修を起点に、階層別研修やIT、ビジネス、営業スキル研修など、多様なカリキュラムを包括的に提供しております。また、DX推進リーダー人材向け研修や、既存社員の能力向上を目的としたリスキリング強化研修など、個別のニーズに応じたカスタマイズ研修も積極的に展開しております。

このような環境のもと、当社グループの研修事業の当第3四半期連結累計期間における売上高は、1,959百万円(前年同期比6.5%増)となり、セグメント利益は261百万円(同9.8%増)となりました。

売上高は、第2四半期から引き続き新人研修が牽引し順調に伸長しております。新卒研修は、第2四半期の基礎力向上研修に加えて、エンジニア養成やソリューション提案力養成などの発展研修が売上に貢献しています。セグメント利益は、講師料や会場費の原価高騰の影響はあるものの、売値への転嫁が功を奏して大幅成長となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別売上高は次のとおりであります。

	当第3四半期 連結累計期間		前年同期 累計期間		増減	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
インサイドセールスアウトソーシング 事業計	3,465	51.1	3,369	51.4	96	2.9
コンサルティングサービス	106	1.6	212	3.2	△105	△49.9
システムソリューションサービス	1,253	18.5	1,130	17.3	123	10.9
プロセス・テクノロジー事業計	1,359	20.0	1,342	20.5	17	1.3
研修事業計	1,959	28.9	1,840	28.1	118	6.5
合計	6,785	100.0	6,552	100.0	232	3.5

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,567百万円となり、前連結会計年度末に比べ47百万円の減少となりました。これは主に、売掛金及び契約資産が61百万円、仕掛品が33百万円、現金及び預金が32百万円、商品が18百万円減少したものの、前払費用等を含むその他の流動資産が98百万円増加したことを要因としたものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は1,304百万円となり、前連結会計年度末に比べ67百万円の減少となりました。これは主に、有形固定資産が27百万円、無形固定資産が32百万円減少したことを要因としたものであります。

これらの結果、総資産は5,872百万円となり、前連結会計年度末の5,987百万円から114百万円の減少となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は966百万円となり、前連結会計年度末に比べ319百万円の減少となりました。これは主に、未払法人税等が144百万円、賞与引当金が134百万円減少したことを要因としたものであります。

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は254百万円となり、前連結会計年度末に比べ50百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金が59百万円減少したことを要因としたものであります。

これらの結果、負債合計は1,220百万円となり、前連結会計年度末の1,590百万円から369百万円の減少となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,651百万円となり、前連結会計年度末の4,396百万円から255百万円の増加となりました。これは主に、当第3四半期連結累計期間に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより469百万円増加したものの、配当金の支払により215百万円減少したことを要因としたものであります。

この結果、自己資本比率は78.8%(前連結会計年度末は73.0%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績につきましては、2025年2月14日の「2024年12月期 決算短信」で公表いたしました通期業績予想との差異は、修正の基準に照らし軽微基準範囲内となる見込みですが、トータルサポート株式会社の株式譲渡に伴い2025年12月期第4四半期は当社連結子会社から除外するため、以下のとおり修正いたします。

なお、当該業績予想につきましては、現在入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

1. 当期の連結業績予想の数値の修正 (2025年1月1日～2025年12月31日)

(単位：百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
前回発表予想 (A)	9,477 ～10,338	1,002 ～1,094	1,002 ～1,094	631 ～688	174円00銭 ～189円72銭
今回修正予想 (B)	9,027 ～9,858	967 ～1,053	967 ～1,053	588 ～642	163円65銭 ～178円63銭
増減額 (B - A)	△450 ～△480	△35 ～△40	△35 ～△40	△42 ～△45	—
増減率 (%)	△4.7 ～△4.6	△3.5 ～△3.7	△3.5 ～△3.7	△6.8 ～△6.7	—
(参考) 前期連結実績 (2024年12月期)	8,615	950	998	661	182円52銭

2. 修正の理由

トータルサポート株式会社の株式譲渡に伴い、2025年第4四半期は当社連結業績の対象から除外いたします。そのため、2025年12月期のセグメント別業績予想につきましては、プロセス・テクノロジー事業の業績予想を、トータルサポート株式会社の第4四半期の計画値を除いた見通しに修正いたします。

なお、インサイドセールスアウトソーシング事業及び研修事業につきましては、売上、セグメント利益ともに期初予想からの変更はございません。

(参考) 当期のセグメント別業績予想数値 (2025年1月1日～2025年12月31日)

(単位：百万円)

	2025年12月期 期初予想		今回修正予想		売上高増減		営業利益増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	金額	増減率 (%)	金額	増減率 (%)
インサイドセールスアウトソーシング事業	4,752 ～5,178	559 ～609	4,752 ～5,178	559 ～609	—	—	—	—
プロセス・テクノロジー事業	2,306 ～2,513	123 ～134	1,856 ～2,033	88 ～94	△450 ～△480	△19.5 ～△19.1	△35 ～△40	△28.3 ～△29.6
研修事業	2,432 ～2,651	322 ～351	2,432 ～2,651	322 ～351	—	—	—	—
合計	9,477 ～10,338	1,002 ～1,094	9,027 ～9,858	967 ～1,053	△450 ～△480	△4.7 ～△4.6	△35 ～△40	△3.5 ～△3.7

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,695,946	2,663,002
売掛金及び契約資産	1,333,462	1,271,710
商品	144,459	126,402
仕掛品	169,656	136,120
貯蔵品	4,004	4,096
その他	267,411	366,298
流動資産合計	4,614,940	4,567,631
固定資産		
有形固定資産	376,413	349,345
無形固定資産		
ソフトウェア	219,199	162,635
のれん	65,922	41,864
その他	36,475	84,796
無形固定資産合計	321,598	289,296
投資その他の資産	674,418	666,355
固定資産合計	1,372,429	1,304,997
資産合計	5,987,369	5,872,629
負債の部		
流動負債		
買掛金	205,106	237,487
短期借入金	50,000	—
1年内返済予定の長期借入金	85,266	77,784
未払法人税等	231,434	87,372
賞与引当金	244,395	110,154
役員賞与引当金	17,808	5,626
その他	451,877	448,051
流動負債合計	1,285,887	966,476
固定負債		
長期借入金	282,971	223,139
その他	21,923	31,186
固定負債合計	304,894	254,325
負債合計	1,590,782	1,220,802
純資産の部		
株主資本		
資本金	552,000	552,000
資本剰余金	423,811	423,811
利益剰余金	3,693,050	3,947,167
自己株式	△289,063	△289,135
株主資本合計	4,379,799	4,633,843
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△8,118	△8,491
その他の包括利益累計額合計	△8,118	△8,491
非支配株主持分	24,906	26,474
純資産合計	4,396,587	4,651,827
負債純資産合計	5,987,369	5,872,629

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
売上高	6,552,852	6,785,080
売上原価	4,448,283	4,559,401
売上総利益	2,104,569	2,225,678
販売費及び一般管理費	1,386,937	1,483,274
営業利益	717,631	742,404
営業外収益		
受取利息	196	6,451
受取配当金	170	170
従業員負担金	758	2,558
助成金収入	2,975	627
保険解約返戻金	49,388	—
その他	2,475	509
営業外収益合計	55,965	10,317
営業外費用		
支払利息	4,925	3,665
為替差損	367	739
支払手数料	1,844	6,000
株式報酬費用消滅損	—	3,456
その他	3	45
営業外費用合計	7,141	13,907
経常利益	766,455	738,815
特別損失		
固定資産売却損	2,563	—
減損損失	—	※1 20,678
固定資産除却損	—	7,208
関係会社株式評価損	※2 33,367	—
リース解約損	3,722	—
ゴルフ会員権売却損	1,486	—
ゴルフ会員権評価損	—	950
特別損失合計	41,140	28,837
税金等調整前四半期純利益	725,314	709,977
法人税等	247,548	238,968
四半期純利益	477,766	471,009
非支配株主に帰属する四半期純利益	7,787	1,568
親会社株主に帰属する四半期純利益	469,978	469,440

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
四半期純利益	477,766	471,009
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	215	△373
その他の包括利益合計	215	△373
四半期包括利益	477,981	470,635
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	470,193	469,067
非支配株主に係る四半期包括利益	7,787	1,568

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更)

(法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号2022年10月28日)を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書に関する注記)

※1 減損損失

当第3四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)

連結子会社のトータルサポート株式会社の買収時に認識したのれんについて、同社の当第3四半期会計期間における業績及び将来の見込みが支配獲得時の事業計画に対して大きく遅れており、期待した超過収益力が見込めなくなったため、当第3四半期会計期間において帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

※2 関係会社株式評価損

前第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

当社の非連結子会社であるBRIDGE International Asia Sdn. Bhd.の株式に係る評価損を計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年9月30日)
減価償却費	163,864千円	124,313千円
のれんの償却額	12,062	11,799

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	インサイド セールスアウ トソーシング 事業	プロセス・ テクノロジー 事業	研修事業	合計		
売上高						
(財又はサービス種類別)						
アウトソーシング	3,369,621	—	—	3,369,621	—	3,369,621
コンサルティング	—	212,013	—	212,013	—	212,013
システムソリューション	—	1,130,528	—	1,130,528	—	1,130,528
研修	—	—	1,840,689	1,840,689	—	1,840,689
顧客との契約から生じる収益	3,369,621	1,342,542	1,840,689	6,552,852	—	6,552,852
外部顧客への売上高	3,369,621	1,342,542	1,840,689	6,552,852	—	6,552,852
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,050	3,872	4,759	9,681	△9,681	—
計	3,370,671	1,346,414	1,845,448	6,562,534	△9,681	6,552,852
セグメント利益又は損失(△)	496,543	△17,724	238,567	717,387	244	717,631

(注) 1. 収益の分解情報は、主要なサービスに区分して記載しております。

2. 調整額はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、トータルサポート株式会社の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。また、2BC株式会社の全株式を取得し、子会社化した後に吸収合併を行っております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、第3四半期連結会計期間末の報告セグメントの資産の金額は、「プロセス・テクノロジー事業」において723,451千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「プロセス・テクノロジー事業」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に、トータルサポート株式会社を連結の範囲に含めたこと、及び、2BC株式会社の全株式を取得し、吸収合併したことにより、のれんが78,665千円発生しております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年1月1日 至 2025年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	インサイド セールスアウ トソーシング 事業	プロセス・ テクノロジー 事業	研修事業	合計		
売上高						
(財又はサービス種類別)						
アウトソーシング	3,465,801	—	—	3,465,801	—	3,465,801
コンサルティング	—	106,117	—	106,117	—	106,117
システムソリューション	—	1,253,611	—	1,253,611	—	1,253,611
研修	—	—	1,959,550	1,959,550	—	1,959,550
顧客との契約から生じる収益	3,465,801	1,359,728	1,959,550	6,785,080	—	6,785,080
外部顧客への売上高	3,465,801	1,359,728	1,959,550	6,785,080	—	6,785,080
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	4,918	2,411	7,329	△7,329	—
計	3,465,801	1,364,646	1,961,961	6,792,409	△7,329	6,785,080
セグメント利益	419,682	60,612	261,851	742,146	258	742,404

(注) 1. 収益の分解情報は、主要なサービスに区分して記載しております。

2. 調整額はセグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。